

安倍外交赤っ恥 北方領土「2島返還」交渉協議をロシア拒否

公開日：2019/07/17 14:50 更新日：2019/07/17 14:50

安倍首相の“喜び組”と揶揄されているNHKの岩田明子解説委員は、この大失敗外交をどう解説するのか。日本、ロシア両国による外交交渉が続く北方領土問題について、ロシア側が1956年の日ソ共同宣言に明記された「歯舞群島」と「色丹島」の2島引き渡しの協議入りを拒否した、と報じられた。

「私とプーチン大統領の手で必ずや終止符を打つ」

日ロ首脳会談で、安倍首相がこう言って北方領土問題の解決に前のめりになったのは昨年11月。以降、歴代の日本政府が薄皮をはぐように積み重ねてきた過去の交渉経緯を蹴飛ばし、勝手に「2島返還」に舵を切った上、外交青書でも従来の「4島の帰属」の記述を削除。ロシア軍が千島列島にミサイルを配備しても抗議すらせず、そうやって、ロシアのプーチン大統領を刺激しないよう細心の注意を払ってきたが、全く通用しなかったワケだ。

それどころか、日本は3000億円もの経済協力まで約束させられたのだから、これを外交敗北と呼ぶに何と云うのか。関係をPRするためにプーチンを「ウラジーミルウ〜」などと親しげに呼び、26回も会談した結果がこのザマだから恥ずかしい限りだ。

赤っ恥をかいたのは安倍首相の片棒を担いで「2島返還プラスアルファ」などと大々的に報じていたNHKや民放、大新聞。大騒ぎしていたのだから今回も大きく報道するべきなのにチョボチョボだ。

〈政権交代前、決められない政治によって、経済は低迷し、外交の存在感も失われていました〉

安倍首相は参院選の遊説でこう威張っているが、まさか北方領土返還の絶望を「決めた」ことによって、存在感を「発揮」と勘違いしているわけではあるまいな。



主要ニュース（共同通信）2019年7月14日 / 21:12 / 3日前

ロシア、2島返還協議入りも拒否

【モスクワ共同】安倍政権が進める日ロ平和条約交渉で、ロシア側が日米同盟による脅威などを理由に、1956年の日ソ共同宣言に明記された歯舞群島と色丹島の2島引き渡しの協議入りも拒否していたことが14日分かった。複数の日ロ関係筋が明らかにした。プーチン政権内で領土問題の譲歩による支持率低下の懸念が高まったためという。

日本側はロシア側に配慮し、北方四島は「日本固有の領土」との従来の主張を封印して2島返還での決着を図ったが、こうした安倍晋三首相の戦略の行き詰まりが明確になった。ロシア主導の交渉が続けば、さらに譲歩を迫られる恐れがある。



ロシア、2島返還協議入りも拒否 政権支持率低下を懸念

2019年7月14日 21時03分

【モスクワ共同】安倍政権が進める日ロ平和条約交渉で、ロシア側が日米同盟による脅威などを理由に、1956年の日ソ共同宣言に明記された歯舞群島と色丹島の2島引き渡しの協議入りも拒否していたことが14日分かった。複数の日ロ関係筋が明らかにした。プーチン政権内で領土問題の譲歩による支持率低下の懸念が高まったためという。

日本側はロシア側に配慮し、北方四島は「日本固有の領土」との従来の主張を封印して2島返還での決着を図ったが、こうした安倍晋三首相の戦略の行き詰まりが明確になった。ロシア主導の交渉が続けば、さらに譲歩を迫られる恐れがある。

中国新聞 デジタル

ロシア、2島返還協議入りも拒否 政権支持率低下を懸念

2019/7/14 21:03

【モスクワ共同】安倍政権が進める日ロ平和条約交渉で、ロシア側が日米同盟による脅威などを理由に、1956年の日ソ共同宣言に明記された歯舞群島と色丹島の2島引き渡しの協議入りも拒否していたことが14日分かった。複数の日ロ関係筋が明らかにした。プーチン政権内で領土問題の譲歩による支持率低下の懸念が高まったためという。

日本側はロシア側に配慮し、北方四島は「日本固有の領土」との従来の主張を封印して2島返還での決着を図ったが、こうした安倍晋三首相の戦略の行き詰まりが明確になった。ロシア主導の交渉が続けば、さらに譲歩を迫られる恐れがある。

日経ビジネス

「60年待って2島返還にとどまれば外交大失敗」

森 永輔 日経ビジネス副編集長 2018年11月19日

安倍首相とプーチン大統領が11月14日に会談し、1956年の日ソ共同宣言を基礎に、日ロ平和条約交渉を加速させることで合意した。時事通信・元モスクワ特派員の名越健郎氏は、安倍首相の父・晋太郎氏が日ソ平和条約にかけた思いに注目する。

(聞き手 森 永輔)

< 3 ページ目 >

「領土問題の継続審議」――ロシアは56年にも拒否国後・択捉について言及のない56年宣言を基礎とすることで、両島の扱いが一層不透明になります。今後、どうなるのでしょうか。

名越：今のところ、政府に展望があるとは思えません。

「2島（歯舞・色丹）先行」なのか、「2島で決着」なのか。官邸は「国後・択捉は放棄する」とは決して言えないと思います。つまり「2島先行」を掲げる。一方で、ロシアは2島で打ち止めをしたい。「2島で決着」、「平和条約によって国境は画定した」としたいでしょう。

日本はロシアの意向を拒否することができるのか。首脳同士のサシの会談でこのあたりも話し合っていると思いますが、安倍首相は大きな2島が戻ってこないことも覚悟しているのだと思います。

56年宣言を締結する交渉の過程で、日本は「領土問題の継続審議」の文言を挿入するよう求めましたが、ソ連が拒否した経緯があります。

名越：おっしゃるとおりです。プーチン政権は国後、択捉の帰属協議を一貫して拒否しており、今回も同様の文言を入れるのは難しいでしょう。

「2島先行」とも、「2島で決着」とも解釈できる玉虫色の表現をするのでしょうか。

名越：その表現を作り出すには芸術的なセンスが必要です。加えて、あいまいな表現ではロシアが署名を拒否する可能性もあるでしょう。

色丹島にロシア人が押し寄せる？

次に、歯舞・色丹の取り扱いについて伺います。プーチン大統領は安倍首相との首脳会談の後、「日ソ共同宣言には平和条約の締結のあとに2つの島を引き渡すと書かれている。ただし、引き渡す根拠やどちらの主権のもとに島が残るのかは書かれていない。これは本格的な検討を必要とする」と発言。同大統領は2016年に訪日した時の記者会見でも、同様の主張をしました。

これに対して菅官房長官が「歯舞諸島、および色丹島が返還されることになれば、当然それらに対する日本の主権、これも確認されることになる」と反論しています。

名越：主権については日本に利があります。第二次大戦末期に米英ソ3首脳が臨んだヤルタ会談で、千島列島と南樺太を得ることを条件に、ソ連は対日参戦しました。この時の文書を読むと、千島列島をソ連に「ピリダーチャ」（英語では「hand over」）する、と書かれています。ソ連はこの文書を元に、主権を含めて千島列島をすべて獲得しました。

そして、56年宣言でも、歯舞・色丹について「引き渡し」を意味する「ピリダーチ」という動詞が使われているのです。日本はこの点を突くべきです。ヤルタ合意に従えば、歯舞・色丹は主権とともに日本に引き渡されることになります。

プーチン発言は詭弁であり、駆け引きです。したがって、主権については最終的には折れてくると思います。

しかし、それでも日本は歯舞・色丹について条件闘争を強いられるでしょう。排他的経済水域について日本の権利を抑制すること、色丹島に住むロシア住民に補償措置をとること、在日米軍の基地を置かないこと、などが考えられます。「取れるものは取る」というのがロシア人の考え方です。

色丹島には3000人近いロシア人が住んでいます。彼らは、日本への引き渡しを嫌って色丹島を離れるグループと、島に残留するグループに分かれるでしょう。日本を離れるグループには補償金を支払うことになるかもしれません。一方、残留するグループは日本国籍を求める可能性があります。そうすると二重国籍問題が発生する。

新たに色丹島を目指してくる人々も出てきます。一部は補償金を目当てにくる人々。別の一部は、反プーチンのロシア人。また返還利権を狙うロシア人が、日本人になるべく色丹島に移住してくる事態もあり得ます。

米軍基地については、安倍首相がプーチン大統領に「置かない」と伝えたことが報道されています。そもそも、不便な離島に米軍が駐在する必要はありません。色丹島は丘陵の地形で、空港を作る場所がありません。ロシアも作っていないのが現状です。ヘリポートはありますが……。米軍にとっては三沢にある空軍基地で十分だと思います。

それでも、日本が米国にこの話をもちかければ、米国は不快に感じるでしょうね。日米地位協定も修正する必要があります。

米国は、「日本のどこにでも基地を置くことを求められる」と解しているそうですね。一方、日本は「歯舞・色丹に米軍基地を置かない」ことをロシアと確認することは同協定上、問題ないと解釈している。

名越：加えて、歯舞・色丹と尖閣諸島とで異なる対応を米国に求めるのもおかしな話です。